



## 盆踊り復活！！

8月15日、震災後初めての盆踊りが開かれました。

私たちプランニングエイドに支援要請があり、東京からハワイアンバンド（ボーカルとギターの2人）を、新潟市からフラダンスチーム（4人）をお招きし、盆踊り前のお楽しみ企画としました。屋台では薫製肉のサンドイッチ、薫製卵・チーズ、くさや干物、焼きソバ、ジャガ・玉焼き、水餃子、ラトイユ、浅漬け、三色寒天、白玉あずき、水飴といった盛り沢山の食べ物が売られ、復活盆踊りの賑わいづくりに一役買っていました。

これまで盆踊りは8時の演芸から始まっていましたが、今回は早めの7時に開場とし、晩ご飯を食べずに集ってもらい、屋台のいろいろな食べ物を楽しんでもらう趣向としました。

午後8時、ギターとウクレレの伴奏でハワイアンソングが流れ始めるころには、特設ステージ前の観客席はほぼ満員となっていました。リーダーの田中とき子さんことトキラニさんのやさしい歌声で歌われるハワイアンソングの数々は、遙か海の向こうの島で生まれた唄とは思えないほど法末の自然に溶け込み、集落のみなさんに大変喜んで頂きました。新潟から駆けつけたフラダンスチームの踊りも好評でした。提灯とかがり火だけの僅かな照明のなかで、独特のゆったりとしたリズムで、気持ち良さそうに踊る姿が、夢のなかで見ているような怪しい美しさを醸しだしていました。

フラダンスのリーダーの指導で、簡単な振り付けを教えてもらい、アンコールでは会場にいるみなさ



ハワイアンソング オン ステージ



フラダンスを楽しむ集落の人々



懐かしい盆踊りの復活

んがフラダンスを踊り、ダンスチームも観客も一体となり、大変盛り上がりました。

盆踊りでは、大橋一治さんの歌声に合わせ、みんなで踊りました。締め括りの三界節では、踊る輪のなかからめいめいに唄を歌い、それに合わせて踊り続け、久しぶりに顔を合わせた方々が楽しそうに踊る姿がほのぼのとして印象的でした。

法末で生まれ育った若者や彼らの子供が集まり、集落が賑わう、お盆の大切なお祭りは、いつまでも続いて欲しいとだれもが思っています。

## 第5回法末たっしゅら会報告

8月25日にやまびこで第5回法末たっしゅら会が開かれ、集落の将来づくりについて話し合いました。今回は「生活全般」と「交流事業」を中心に様々な取り組み案や意見が出されました。

### 生活全般

- ・丑松洞門の先の谷戸でトキを飼うといった案も検討してみてもどうか。
- ・携帯電話については、集落として、事業者に引き続き要望していく。
- ・集落を出て行く人の空き家の取り扱いに関するルールを、文書化してはどうか。
- ・家の修理に関し、ある程度自分でできるように、職人さんに講習をしてもらえるとありがたい。
- ・戸の立て付けなど、ちょっとした修繕をするボランティアを派遣してもらいたい。
- ・民生委員が前のようには回れなくなるので、これを補う見守り対応を検討する必要がある。
- ・本当に高齢者の声を聞いているのか？という問題意識を念頭において、検討を進めるべきだ。

### 交流事業

- ・子ども客を増やすため、「遠足イベント」で子どもにとっての魅力を探ってはどうか。いなごつかみや洞門での肝試しなど、新しいプログラムはどうか？
- ・大人の山歩き探検（法末 - 向山 - 郡殿の池、法末 - 森林公園、愛宕様 - 丑松洞門など）を試しては？
- ・冬の交流にはぜひ取り組みたい。積雪時の道路除雪・駐車場の確保などが課題。
- ・空き民家を活用した宿泊施設も考えたい。しかし、家の持ち主の意向もあり、調整が難しい。
- ・食事と風呂はやまびこ、泊まりは民家の空いた部屋といった、混合型の宿泊形態も考えられる。
- ・宅配便で米や野菜を送るときに、「法末へんなか通信やたっしゅら会通信」をその上に一緒に入れて、親族の法末への関心を高めては？ グリーンリースの米などをお客さんに送るときも、同様に入れてみては？ 法末の魅力の品も同封するとなお良い。

## かぐらなんばん試作品第一弾誕生！

8月23日にかぐらなんばんの試作品第一弾「かぐらなんばんペースト」が誕生しました。

これはへたをとったかぐら南蛮を細かくしたものに、オリーブオイル、塩、パルメザンチーズを加えて、ペーストに加工したものです。見た目はおろしわさびに似た鮮やかな緑色で、辛みが強く、生のシャキシャキ感があります。たっしゅら会の席上、そうめんとともに試食が出され、大好評でした。

（編集責任者 宮田裕介）